

未就学児を育てる共働き夫婦におけるストレスの発生と収束

ジョイント・インタビュー法を用いて

黒澤 泰^{1,2}・加藤 道代¹

(¹東北大学大学院教育学研究科・²日本学術振興会)

【問題と目的】

困難の発生から収束までに着目したストレス研究においては、困難に対して行われるコーピング(coping)が重要視されている。先行研究では、コーピングを行う主体を、単独/個人として捉えてきたものが多い(加藤・金井, 2006; Wiersma, 1994)。しかし、共働き夫婦を対象とした Stanfield (1998)では、夫婦のコーピングスタイル(couple style of coping)として、柔軟スタイルと固定スタイルがあることを見いだしている。この知見は、夫と妻双方が主体として関わるコーピングプロセスの存在を示している。

このような夫婦の行動を検証する上で、面接者 1 人対面接協力者 2 人の形式で行われる面接法であるジョイント・インタビュー(joint interview)法(Arksey & Knight, 1999; 鈴木, 2005)は、有効な方法である。ジョイント・インタビュー法は、同一のテーマについて、面接協力者の 2 人からそれぞれの話を同時に尋ねる。この面接法には、語られたイベントが実際に起きたのかが確認できること、同じ出来事に対して双方がどのように見ているのかが検証できること、また、面接協力者の相互作用を観察することが可能になるといった利点がある(Allan, 1980)。

本研究の目的は、未就学児を育てる共働き夫婦のストレスの発生から収束までの一連の流れに関して、ジョイント・インタビュー法を用いて検討することである。

【方法】

2012年7月から9月にかけて、東北地方のミニコミ誌の広告欄を通して、調査協力者の夫婦を募集した。その広告欄を見てこちらに連絡した7組の未就学児を育てる共働き夫婦から調査協力を得た。7組全てが同居していた。5組は妻が働いており、2組は妻が育児休業中であった。夫の平均年齢は31.14歳($SD = 2.36$)、妻の平均年齢は31.29歳($SD = 2.55$)であった。第一子の平均年齢は、31.29か月($SD = 14.98$ か月)であった。

【結果】

1. 夫婦のストレスの発生

夫婦間で発生するストレスの代表として、夫婦げんかや緊張場面を尋ねたところ、夫婦のやりとりに関係するもの(C)、育児に関係するもの(B, F)、生活習慣(C, E, G)が語られた。なお、4組の夫婦は、「大きな夫婦げんかは特にない」と答えた。

2. コーピング

夫婦げんかに対するコーピングとして語られたエピソードは、夫が謝り、妻がまだ怒っている場合、夫が距離を置き、妻がそれに引き続いて謝る(C)、夫が謝る(E)、夫がふざけて、妻がそれにつられて笑ってしまう(F)、すぐにはぶつからず、お互い距離を置いて、おさまるのを待つ(F)であった。

【考察】

本研究では、夫婦内にストレス場面が発生したときに、配偶者の内の一者がコーピングした後に、他方の配偶者が行うコーピング、言い換えれば、コーピングの連鎖が観察された。また、「(夫婦げんかを)なんかうまく回避しているのかな(A)」「(不満に)思ったとしても、口に出さないほうがお互いにとっていいのかなと思ったりしているんで(A)」「自分がイライラしてるのはわかりますけど、口に出しては言わないで、ある程度様子見て(F)」など、夫婦のストレス場面を発生させないために行われる、夫と妻、それぞれのコーピングがあることが示唆された。

加えて、ジョイント・インタビュー法を用いることで、他方の配偶者の語りへの“補足”や“修正”，1つの質問に対して、夫婦で相談し合いながら答える“共同回答”などが観察された。最後に、本研究の限界を述べる。ジョイント・インタビューには、夫婦で行き違う説明に関して、どう重みづけるのかは難しいという限界があり(Allan, 1980)、この点に関する検証が今後も必要である。

【文献】

Arksey, H. & Knight, P. (1999). *Interviewing for Social Scientists*. London: Sage Publications.